

第 2 次 名古屋市図書館行動目標

名古屋市図書館

令和 7 年 7 月

I はじめに

インターネットの発展・普及により、資料・情報の生産・流通の仕組みが大きく変わり、市民生活に必要な資料・情報にアクセスする方法も著しく変化しました。このような変化に対応できるよう、名古屋市図書館では平成 20 年 6 月に「市民の生活に役立つ図書館をめざして」を策定し、名古屋市図書館の基本理念・基本方針を明らかにしました。また、この基本理念・基本方針を実現するために、「名古屋市図書館中期計画」（平成 21 年 6 月）、「第 2 次名古屋市図書館中期計画」（平成 26 年 3 月）を策定しました。

その後、図書館においても人口減少社会の到来、少子化・高齢化の進行による人口構造の変化などに伴う社会的ニーズの変化や厳しい財政状況のもとでのサービスの集中と選択、アセットマネジメントといった行政課題への対応が求められました。そこで、時代に即した市民サービスを展開し、更なる市民サービスの向上を追求しながら効果的・効率的な図書館運営を図るため、図書館の運営について長期的な方向性と取り組みを示すものとして、平成 29 年 12 月に「なごやアクティブ・ライブラリー構想」を策定しました。

令和 2 年 3 月には、名古屋市図書館がとるべき行動を明確化し、各種事業の方向性を示すために、令和 6 年度末までの 5 年間の「名古屋市図書館行動目標」を定めました。

この目標を作成後、「第 4 次名古屋市子ども読書活動推進計画」（令和 5 年 3 月）、「名古屋市読書バリアフリー推進計画（第 1 次）」（令和 6 年 3 月）、「第 4 期名古屋市教育振興基本計画」（令和 6 年 3 月）、「名古屋市総合計画 2028」（令和 6 年 3 月）など、さまざまな課題に対応すべく、名古屋市の方針・計画が策定されています。

また、図書館をめぐる状況としては新型コロナウイルス感染症の収束後の人々の行動様式の変化や令和 5 年度の文化庁の調査における国民の読書離れが以前の調査より進んでいる実態などが明らかになる中、本市では「なごやアクティブ・ライブラリー構想」における第 1 ブロックのアクティブライブラリーの整備地が決定し、令和 10 年の開館に向け、多くの市民に利用していただけるよう、必要な機能などを検討することが急務となっています。

これらを踏まえ、令和 10 年度末までの 4 年間の名古屋市図書館がとるべき行動を明確化した「第 2 次名古屋市図書館行動目標」を定め、効果的な事業を推進していきます。

Ⅱ 行動目標の考え方

1 「名古屋市図書館行動目標」（令和2～6年度）の総括

「第3期（平成30～令和5年度）名古屋市教育振興基本計画」の成果指標

指 標	現状値 平成29年度	目標値 令和5年度	実績値 令和5年度
図書館サービスの利用者数 (入館者数と館外事業参加者数の計)	6,552,192人	6,650,000人	5,397,954人

令和6年度までの行動目標の対象期間である令和2～6年度は、新型コロナウイルス感染症という外的要因による影響が大きく、来館者数などの実績は大きく減少し、目標を下回りました。また、行動目標ごとの成果と課題は次のように考えています。

(成果及び課題)

	成果及び課題
□ 過去・現在・未来をつなぐ図書館	
行動目標1	市民のさまざまなニーズに応えるため、多様な資料を収集・整理・保存します。 ○令和3年度に導入した電子書籍の利用者が132,989人(R6実績)とほぼ分館1館分の利用者数で市民ニーズに応えることができたが、紙の書籍の新規受入タイトル数は、予算の減少により減少した。 ○読書バリアフリーにかかるアクセシブルな資料については、さらなる増加が求められている。
行動目標2	郷土の歴史・文化を継承し、広く魅力を発信するため、郷土資料を充実させます。 ○なごやコレクションや名古屋なんでも調査団などのコンテンツの充実により、名古屋の魅力を発信できた。 ○貴重資料のデジタル化に充てる予算が不足しており、予定どおり進んでいない。
□ 市民と資料・情報をつなぐ図書館	
行動目標3	利便性・快適性を高め、誰もが利用しやすい魅力的な図書館・図書館サービスを実施します。 ○自動車図書館を小型化して4台導入することにより、館外で市民が本とふれあう機会が増えるとともに、ここにもライブラリーや館外返却ポストの設置、電子書籍の導入により、誰もが利用しやすい環境づくりが進んだ。 ○「なごやアクティブ・ライブラリー構想」に基づく第1ブロックの整備方針を策定するとともに、星が丘図書館(仮称)や千種区役所等複合庁舎内図書館の整備に着手した。 ○さらに誰もが利用しやすい図書館サービスの実現に向け、障害者サービスの充実やICタグの導入などのDX化などの市民ニーズに応じていく必要がある。

行動目標 4	レファレンスサービスの充実・高度化に努めます。
	○約半数の利用者がレファレンスサービスについて知らず、十分周知がされているとは言えないことからさまざまな媒体を通した周知が必要である。
行動目標 5	暮らし・仕事に役立つ本棚づくり・魅力的な本棚づくりを進め、さまざまな広報媒体を活用して発信します。
	○暮らし・仕事に役立つ本棚づくりや魅力的な本棚づくりに努めてきたが、市民ニーズを見ながら、さらに進めていく必要がある。 ○広報媒体として図書館ホームページに中・高生向けのページを新設するとともに一部の館でInstagramなど新たな広報媒体を活用するなど、きめ細やかな情報提供ができた。
行動目標 6	子どもたちが生涯にわたる読書習慣や自ら考え行動する力を身につけることができるよう、子ども読書活動を推進します。
	○乳児期から絵本にふれあうことができるよう「赤ちゃんへの絵本プレゼント事業」や館外で子どもたちが絵本に親しめるよう医療機関、保育園、幼稚園への団体貸出を新たに開始し、子どもの読書活動を推進した。
	○中・高生に向けた取り組みとして読書アンバサダーによる本の紹介動画の配信や中学生などに電子書籍専用 ID を配付し電子書籍を利用できる環境を整えたところ、中学生などの利用者が約 37,000 人(R6 実績)と電子書籍全体の約 3 割を占めるなど、読書への興味関心を喚起した。
	○中・高生の不読率がまだ高いことから、さらなる方策が必要である。
行動目標 7	多様な学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を発信・活用できる仕組みづくりを進め、大人も読書活動を推進します。
	○大人向け行事の開催回数が大幅に増え、大人の読書活動を推進した。
□ 市民・地域社会をつなぐ図書館	
行動目標 8	他機関や団体と連携し、資料・情報の利用及び活用のためのインフラ・情報拠点となります。
	○連携による企画・展示件数は、コロナ禍で減少したものの同水準まで回復し、図書館が情報拠点としての役割を果たしている。 ○書店との連携など、市民ニーズや社会情勢などに応じた連携が必要となっている。
行動目標 9	市民・地域社会が活動するための環境づくりを進め、協働して事業を実施します。
	○なごやほんでキフ倶楽部などの寄附制度も定着し、また、ここにもライブラリーの設置など、市民・地域社会との協働が進んでいるが、多様化する地域課題に応えるため、さらなる協働が必要となっている。
□ 行動目標 1～9 を達成するために	
行動目標 10	職員の資質向上に取り組めます。
	○司書の研修の実施にあたっては、絶えず、市民ニーズの変化などに留意する必要がある。

(参考) 名古屋市図書館行動目標に掲げた参考となる実績

	事項		平成 30 年度	令和 6 年度	増減
1	新規受入タイトル数	点	27,475	22,921	△ 4,554
2	郷土資料の受入点数	点	6,846	6,056	△ 790
3	入館者数	人	6,424,206	5,357,718	△ 1066,488
	館外事業参加者数	人	116,845	129,473	12,628
4	名古屋市図書館が提供したレファレンス事例へのアクセス件数	件	271,051	※1 330,753 (令和 5 年度)	59,702
5	ホームページアクセス件数※2	件	13,825,152	8,568,127	△ 5,257,025
6	おはなし会の実施回数・参加者数	回	1,901	2,034	133
		人	39,703	29,545	△10,158
	ティーンズX フォロアー数・発信件数	人	43	546	503
		件	49	381	332
7	大人向け行事の開催回数	回	269	1,015	739
8	連携による企画・展示件数	件	1,287	1,253	△34
9	図書館ボランティア登録数	人	1,397	1,181	△ 216
10	利用者満足度	%	97.3	98.0	0.7

※1 提供先の国立国会図書館が6年度の件数を公表していないため、5年度を記載

※2 令和元年度のシステム更新でアクセス件数の集計方法が変更されたことに伴う減

2 「第2次名古屋市図書館行動目標」の考え方

コロナの影響も一段落した令和7年度からの行動目標では、従来の行動目標を踏襲しつつ、行動目標の課題や市民ニーズの変化、社会情勢の変化などを踏まえた、新たな取り組みを加え、来館者数などの増加などに引き続き取り組むこととします。

よって、今回策定する「第2次名古屋市図書館行動目標」が掲げる目標値としては、「第4期名古屋市教育振興基本計画」（令和6年3月）において成果指標である、「図書館サービスの利用者数」として、入館者数、館外事業参加者数及び電子書籍利用者数の合計とします。

指標	現状値 令和 6 (2024) 年度	目標値 令和 10 (2028) 年度
図書館サービスの利用者数 (入館者数、館外事業参加者数及び電子書籍利用者数の合計)	5,620,180 人	7,000,000 人

この目標値を達成するために、名古屋市図書館の11の行動目標を設定し、それぞれの現状・課題・方策と主な取り組みを例示しました。

行動目標	「第4期名古屋市教育振興基本計画」をはじめとした計画・構想に基づき名古屋市図書館の目標として設定したもの
現状・課題・方策	行動目標ごとの現状と課題、課題を解決するためにとるべき方策
主な取り組み	名古屋市図書館が実施する事業・施策

「第2次名古屋市図書館行動目標」の成果指標の内訳

指標		現状値 令和6(2024)年度	目標値 令和10(2028)年度
入館者数		5,357,718人	6,540,000人
館外事業参加者数		129,473人	180,000人
内 訳	自動車図書館貸出利用者数	22,599人	33,000人
	学校訪問等(ブックトーク等)	7,509人	20,210人
	保健センター(健診時読み聞かせ等)	12,341人	35,000人
	館外行事	16,298人	19,000人
	その他※	70,726人	72,790人
電子書籍利用者数		132,989人	280,000人
合 計		5,620,180人	7,000,000人

※西文化センター、ここにもライブラリー、館外返却ポスト、郵送貸出、点字文庫利用者などを含む

Ⅲ 行動目標の期間

令和7(2025)年度から令和10(2028)年度までの4年間で想定して策定しますが、変化にすみやかに対応できるよう必要に応じて見直しを行うものとします。

Ⅳ 行動目標

令和5年度に「名古屋市読書バリアフリー推進計画」が策定され、図書館としても今まで以上に視覚障害者等の読書環境の整備に向け、重点的に取り組む必要があることから、行動目標として新たに1項目追加します。(行動目標8)

□ 過去・現在・未来をつなぐ図書館

行動目標1	市民のさまざまなニーズに応えるため、多様な資料を収集・整理・保存します。
行動目標2	郷土の歴史・文化を継承し、広く魅力を発信するため、郷土資料を充実させます。

□ 市民と資料・情報をつなぐ図書館

行動目標3	利便性・快適性を高め、誰もが利用しやすい魅力的な図書館・図書館サービスを実施します。
行動目標4	レファレンスサービスの充実・高度化に努めます。
行動目標5	暮らし・仕事に役立つ本棚づくり・魅力的な本棚づくりを進め、本や図書館の魅力をさまざまな広報媒体を活用して発信します。
行動目標6	子どもたちが生涯にわたる読書習慣や自ら考え行動する力を身につけることができるよう、子ども読書活動を推進します。
行動目標7	多様な学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を発信・活用できる仕組みづくりを進め、大人の読書活動を推進します。
新 行動目標8	「名古屋市読書バリアフリー推進計画」に基づき、視覚障害者等の読書環境の整備に取り組みます。

□ 市民・地域社会をつなぐ図書館

行動目標9	他機関や団体と連携し、資料・情報の利用及び活用のためのインフラ・情報拠点となります。
行動目標10	市民・地域社会が活動するための環境づくりを進め、協働して事業を実施します。

□ 行動目標1～10を達成するために

行動目標11	職員の資質向上に取り組みます。
--------	-----------------

行動目標 1	市民のさまざまなニーズに応えるため、多様な資料を収集・整理・保存します。
--------	--------------------------------------

現状・課題・方策

□ 収集

名古屋市図書館では、「名古屋市図書館資料収集方針」に基づき、分館や自動車図書館は地域に根差した資料や生活に密着した資料、広く親しまれる資料を、中央館はこれらに加えて豊富な郷土資料、高度な調査研究が可能となる専門資料を収集しています。

現在及び未来の市民のさまざまなニーズにお応えするために、名古屋市図書館全体の年間図書受入タイトル数を維持して幅広い多様な資料を収集します。また、限定的な販売や一般には流通しないなどにより、書店やインターネットではなかなか出会えない資料についても積極的に収集し、図書館ならではの資料の収集を進めます。

インターネットの発展・普及の結果、インターネットは市民生活に必要な重要な情報源の一つとなりました。図書館向けに新聞記事データベースなどが有料で提供され、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版で入手が困難な資料を公共図書館などの館内でのみ閲覧できるサービスがインターネットで提供されるようになっています。

これらのインターネットで提供される情報を市民が利用できるよう、鶴舞中央図書館を中心に、図書館向け商用データベースの導入や、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス（図書館送信）の利用環境を整備しています。

また、令和6年3月に策定された「名古屋市読書バリアフリー推進計画（第1次）」に基づき、電子書籍サービスやDAISY、LLブック、さわる絵本、布の絵本及び大活字本などアクセシブルな資料の収集も進めるとともに、オーディオブックはじめその他バリアフリー資料の収集について検討します。

□ 整理

資料を探しやすくするために、名古屋市図書館では書誌情報（タイトル、著者、出版者などの情報）と所在情報（本がどこにあるかの情報）からなる目録を作成し、OPAC（Online Public Access Catalog）としてインターネットで公開しています。

紙媒体の資料がデジタル化されたり、ポーンデジタルの資料（最初からデジタルのみで公開される資料）など、資料や情報はさまざまな表現・形態に変化しています。適切に対応するため、目録作成の新たなルールの作成を検討します。

📖 保存

名古屋市図書館で最後の1冊となった図書を中央館で永年保存するラストワン制度を昭和53年に開始しました。このラストワン制度は、中央館に巨大な書庫があることを前提としたものでした。

しかし、ラストワン制度の開始より40年以上が経過し、中央館の書庫の収容能力はすでに限界に達しています。現在は、分館の書庫を中央館の外部書庫とすることにより名古屋市図書館保存集結ガイドライン（ラストワン制度）を維持していますが、それも近々限界を迎えると予想されます。

一方、国立国会図書館は平成20年度から所蔵資料のデジタル化を進めています。同館の「資料デジタル化基本計画2021-2025」では平成12年までに刊行された図書を当面のデジタル化の対象範囲とし、著作権の問題のないものをインターネット公開するほか、絶版などの理由で入手が困難なものは個人向けデジタル化資料送信サービスにより閲覧することができます。このような図書等のデジタル化の状況を踏まえ、名古屋市図書館がどのような資料を永年保存するのかを明らかにする資料保存基準の策定に取り組めます。

📖 主な取り組み

📖 収集

- 図書選択会議（全館での蔵書構成の調整）
- アクセシブルな資料の収集(拡)
- ◆ 商用データベースの提供(拡)
- ◇ 国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスの提供（絶版などの理由で入手困難な資料を国立国会図書館の承認を得た図書館内で閲覧できるサービス）
- ◇ 電子書籍サービスの拡充(拡)

📖 整理

- ☆ 貴重資料やデジタル化資料の目録作成の新たなルール作成の検討
- ☆ ボーンデジタル資料の収集についての検討

📖 保存

- ☆ 資料保存基準の検討

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和7年度以降の新規事業、(拡)令和7～10年度の期間に拡充するもの

	行動目標 2 郷土の歴史・文化を継承し、広く魅力を発信するため、郷土資料を充実させます。
--	--

	現状・課題・方策
--	----------

☐ 郷土資料の収集・整理・保存とデジタル化

郷土資料については紙媒体の資料の収集・保存を基本とし、新刊書だけでなく古書も積極的に収集しています。郷土資料の長期的な保存と提供を両立させるためにはデジタル化が有効ですが、すべての資料をデジタル化することは、媒体変換やその維持にコストがかかるという課題があります。

国立国会図書館などの所蔵状況及びデジタル化の状況を調査し、名古屋市図書館のみが所蔵するもののうち劣化が進んでいるものを優先的にデジタル化します。また、ボーンデジタル資料（最初からデジタルのみで公開される資料）の収集についても検討します。

☐ なごやコレクション

鶴舞中央図書館所蔵の貴重資料（特別集書）の一部をデジタル化し、平成 20 年 1 月から「なごやコレクション」としてインターネット公開しています。この「なごやコレクション」には、郷土資料を調べやすくするための情報（図書の本文に含まれるキーワード）を収録した郷土検索データベースが含まれ、これらを一括して検索する機能もあります。

デジタル化資料や郷土資料を調べやすくする情報を「なごやコレクション」として積極的に公開し、郷土資料にアクセスしやすい環境を整えます。

☐ 郷土資料を活用した名古屋の魅力の発信

郷土資料を活用し、名古屋なんでも調査団のコンテンツ（調査団報告書など）や高齢者はつらつ長寿推進事業のプログラムの一つとして実施している音読教室用の郷土にちなんだテキストを司書が作成しています。郷土の歴史・文化に気軽に触れる機会を提供することを通して、名古屋の魅力の発信に努めます。

主な取り組み

📖 郷土資料の収集・整理・保存とデジタル化

- 新刊書・古書の積極的な購入
- 寄贈依頼による収集
- ◇ 貴重資料や劣化した郷土資料の紙媒体の複製製作
- ☆ 貴重資料やデジタル化資料の目録作成の新たなルール作成の検討
- ☆ ボーンデジタル資料の収集についての検討

📖 なごやコレクション

- ◇ なごやコレクションの充実（貴重資料や劣化した郷土資料のデジタル化と公開）
- ◇ 郷土件名データベース（郷土資料を調べやすくするための情報のデータベース化）

📖 郷土資料を活用した名古屋の魅力の発信

- 名古屋なんでも調査団をはじめとする地域に関するコンテンツの作成及びインターネット等での発信
 - ・ 調査団報告書（レファレンス記録風に名古屋の歴史・文化を紹介）
 - ・ なごやカレンダー（〇月×日に名古屋で何があったのか、典拠を付して紹介）
- 音読教室用に郷土にちなんだテキストの作成（社会福祉協議会との連携による「音読教室事業」で使用するテキスト）

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和7年度以降の新規事業、(拡)令和7～10年度の期間に拡充するもの

行動目標 3	利便性・快適性を高め、誰もが利用しやすい魅力的な図書館・図書館サービスを実施します。
--------	--

現状・課題・方策

☐ 誰もが利用しやすい環境づくり

図書館はあらゆる人に開かれた施設として、さまざまな方が利用しています。少子高齢化社会において、子どもから高齢者まで図書館で安心して過ごすことができる居場所としての図書館の環境づくりをはじめ、外国人人口の増加、読書バリアフリー法の施行などさまざまな社会情勢の変化を踏まえて、年齢、母語、心身の障害などが図書館利用の障壁にならないよう環境づくりを進めます。また、障害のある方や子育て中の方など、来館が難しい市民が気軽に本とふれあう方策を進めます。

さらに貸出・返却や予約受取の自動化など市民が快適に利用できる環境の整備にも取り組みます。

☐ さまざまなニーズに応えられる読書空間づくり

従来の図書館は静かに読書できる場所というイメージでしたが、おしゃべりや交流もしたいという方の希望もかなえられるよう時間的・空間的な仕切りを設けるなどの工夫を一部の図書館で行っています。また、インターネットの情報を含め、資料・情報を利用しようとする市民のニーズに対しては必要な環境整備を進めています。

こうしたさまざまなニーズに応えられるよう、各図書館及び合築・周辺施設の状況に応じた魅力的な読書空間づくりを進めます。

☐ 図書館整備の推進と館内にとどまらない図書館サービスの実施

平成 29 年 12 月に「なごやアクティブ・ライブラリー構想」を策定しました。その中では、中央館のほかに市域を 5 つのブロックに分け、さまざまな場所でサービスを提供できるよう、ブロック内で施設の再配置を行うことを掲げています。建築年次の古い施設が多い第 1 ブロック（千種区、東区、守山区、名東区）の整備を優先し、アクティブライブラリーとして星が丘図書館（仮称）及びスマートライブラリーとして千種区役所等複合庁舎内での施設整備を進めるとともに、その他の図書館はコミュニティライブラリーとして整備手法を検討していきます。

また、名古屋市では中央館はじめ建物館 21 館と自動車図書館のネットワークで図書館サービスを展開しています。しかしながら、地理的・時間的な制約により、図書館の利用が困難だと感じる方もいることから、新しく導入した小型自動車図書館などの活用により図書館外に出向いていくサービスにも力を入れ、名古屋市全域に広く図書館サービスをお届けできるよう努めます。

主な取り組み

☐ 誰もが利用しやすい環境づくり

- 建物館 21 館、小型自動車図書館 6 台での図書館サービスの提供(拡)
- 館外返却ポストの拡充(拡)
- ここにもライブラリーの拡充（地域と図書館が協力し合い、人と本とが出会う場所をつくる取り組み）(拡)
- 身体に重度の障害がある方、知的障害の重い方への郵送貸出
- 図書館の本、新聞、雑誌などをお読みする対面読書（予約制）
- 拡大鏡や拡大読書器などの資料の利用に必要な機器の整備
- 外国語及びやさしい日本語による案内表示・利用案内の整備
- 母語が異なる方の日本語学習資料、日常生活支援資料の整備
- IC タグの導入（貸出・返却や予約受取の自動化）(新)
- ◆ 図書等の部分録音の製作・貸出
- ◇ 点字図書・デージー図書・テキストデータ化の製作・貸出(拡)
- ◇ 国立国会図書館視覚障害者用データ送信サービスへの参加
- ◇ 電子書籍サービスの拡充(拡)
- ◇ 学習室の座席予約システムの実施
- ◇ なごや子ども応援文庫 onono の実施
- ☆ 図書館に来館しなくても利用登録ができるシステムの導入の検討(新)
- ☆ 視覚や精神など、その他の障害のある方への郵送貸出の検討(新)
- ☆ 星が丘図書館（仮称）における開館日・開館時間の拡大・延長の検討(新)

☐ さまざまなニーズに応えられる読書空間づくり

- ◆ 館内でおしゃべり OK の時間帯を設定
- ◆ 星が丘図書館（仮称）における多様なニーズに合わせた座席の設置(新)
- ◆ 星が丘図書館（仮称）における飲食が可能なスペースのゾーニング(新)
- インターネット閲覧環境の整備（閲覧用端末の設置や Wi-Fi 環境の整備など）
- 図書館見学ツアー（団体向けの図書館施設見学）

☐ 図書館整備の推進と館内にとどまらない図書館サービスの実施

- 各種イベントへの参加
- ◇ 第 1 ブロック星が丘図書館（仮称）及び千種区役所等複合庁舎内図書館の整備(新)
- ◇ 小型自動車図書館を活用した市民が本とふれあう機会の充実(拡)

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和 7 年度以降の新規事業、(拡)令和 7～10 年度の期間に拡充するもの

行動目標4 レファレンスサービスの充実・高度化に努めます。

現状・課題・方策

☐ インターネットと主体的な学び

インターネットは情報入手の手段の一つとして、生活に欠かせないものとなっていますが、膨大なインターネットの情報の中から求める情報を見つけることは必ずしも容易ではありません。また、中には誤った情報や虚偽の情報もあります。これらのインターネットで得られた情報が適切であるかは、他の情報源や図書館資料なども調べた上で総合的に判断する必要があります。また、商用データベースなどインターネットでの入手に費用がかかる情報、インターネットでは入手できない情報もあります。

本をはじめ従来から図書館が所蔵してきた資料には知識や情報を定まった形で後世に伝えるという重要な機能があり、その価値はインターネット誕生後も変わりません。主体的な学びには、インターネットの情報（フロー）と図書館資料（ストック）の両方が必要な状況が今後も続くと思われされます。

☐ 主体的な学びを支援するレファレンスサービス

図書館では、利用者の求めに応じ、司書が資料の提供・紹介及び情報の提示などを行うレファレンスサービスを通して、暮らし・仕事に関する課題、地域の課題の解決に向けた活動を支援しています。また、市職員に対して、市政に関わる資料調査の支援（庁内レファレンス）や図書館資料の貸出（特例貸出）を実施しています。

市民が自分自身で課題解決の糸口を見つけることができるように、個別の質問・相談に応じるレファレンスサービスにより得られた知識・情報を記録し、コンテンツ化・レファレンスツール化して、図書館ホームページや国立国会図書館レファレンス協同データベースで公開することにより、更なるレファレンスサービスの充実と高度化に努めます。

☐ レファレンスサービスの周知

暮らしのなかの困りごとの解決のための情報や、仕事に役立つ情報などを提供する場が図書館であり、その支援をする専門家が司書であることは、まだ多くの方が知らない状況にあります。図書館をもっと有効に活用してもらうためには、このレファレンスサービスの認知度を高める必要があります。レファレンスサービスを身近に感じてもらうための取り組みを改善し、より気軽に質問・相談しやすい雰囲気づくりを進めるとともに、SNS などを活用して周知に努めます。

主な取り組み

☐ インターネットと主体的な学び

- 資料・情報の生産・流通の仕組みの変化や動向について情報収集

☐ 主体的な学びを支援するレファレンスサービス

- 窓口・電話・文書（電子メール）によるレファレンスサービス
- 市職員に対する市政に関わる資料調査の支援（庁内レファレンス）と図書館資料の貸出（特例貸出）
- 国立国会図書館レファレンス協同データベースへの参加（市民が自分自身で調べるときに参考となるレファレンス事例をインターネットで公開）
- 図書館資料を活用した調べ方を案内するパスファインダーの作成・更新・インターネットでの公表
- ◇ 書名などに出てこないキーワードでも検索できるようにするための郷土件名データベースの作成・更新・インターネットでの公表
- ◇ 新聞クリッピングの作成（名古屋に関する新聞記事の切り抜きをファイル化）

☐ レファレンスサービスの周知

- レファレンスカウンターの設置
- レファレンスサービスの PR、サインの改善
- SNS などを活用した新たな周知方法の拡大(拡)

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和7年度以降の新規事業、(拡)令和7～10年度の期間に拡充するもの

	行動目標 5 暮らし・仕事に役立つ本棚づくり・魅力的な本棚づくりを進め、本や図書館の魅力をさまざまな広報媒体を活用して発信します。
--	---

	現状・課題・方策
--	----------

☐ 暮らし・仕事に役立つ本棚づくり・魅力的な本棚づくり

社会の高度情報化に伴い、市民が日常的に接する情報の総量は飛躍的に増加しています。そのような中、暮らし・仕事に役立つ情報をすみやかに入手することへの市民ニーズが高まっていますが、自分の課題を正確に把握することや求める情報にたどり着くことが困難になっています。

個別の質問・相談に応じるレファレンスサービスにより得られた知識・情報や他都市の図書館の実施例を踏まえて、本の並べ方などを工夫し、困りごとの解決のヒントとなる本がすぐに見つかるよう、視覚的・直感的にわかりやすく魅力的な本棚づくりを進めます。

また、新刊案内やおすすめ本として紹介した児童書については、一定期間貸出を行わず館内で読むことができるようにすることで子どもたちの読書意欲を向上し、本との出会いを豊かにする図書館をめざします。

☐ 本や図書館の魅力をさまざまな広報媒体を活用して発信

暮らし・仕事に役立つ情報や困りごとのヒントとなる本、魅力的な本が図書館にあるということを知っていただかなければ、せっかくの本や情報も膨大な情報量の中で埋もれてしまいます。

より多くの市民が求める情報にアクセスできるよう、目的に応じた効果的な広報手段の選択や時期を捉えたきめ細やかな情報提供を進めていきます。

主な取り組み

☐ 暮らし・仕事に役立つ本棚づくり・魅力的な本棚づくり

- 視覚的・直感的にわかりやすいテーマにそった本棚づくり
- 暮らし・仕事に役立つブックリストなどの作成
- 目を引く POP の作成や多様な切り口による資料展示などの魅力的な本に出会える本棚づくり
- 新刊案内やおすすめ本として紹介した児童書を中心とした子どもたちの興味関心を広げる本棚づくり(新)
- ◇ ビジネス支援の充実(拡)
- ☆ 話題の一般書などの紹介を契機とした図書館で読みたいとなる本と出会うことができる効果的な手法の検討(新)

☐ 本や図書館の魅力をさまざまな広報媒体を活用して発信

- 図書館ホームページの充実(拡)
 - ・ 読書バリアフリーページの新設
 - ・ ビジネス支援ページの新設
 - ・ ティーンズ（中高生向け）ページの充実
 - ・ 行事予定や実施報告、本の展示記録などの情報発信
 - ・ 名古屋なんでも調査団の調査報告書や、資料の調べ方（パスファインダーなど）についての情報提供
 - ・ ホームページ・館内の蔵書検索機での司書のおススメなどの情報発信（図書の詳細情報に職員による紹介文などを追加）
- 図書リストなどの作成・配布
- SNS を利用した情報発信(拡)
 - ・ 名古屋市図書館公式X
 - ・ 名古屋市図書館ティーンズX
- ◆ インスタグラムなど新たな広報媒体・情報発信方法の活用（拡）

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和7年度以降の新規事業、(拡)令和7～10年度の期間に拡充するもの

行動目標 6	子どもたちが生涯にわたる読書習慣や自ら考え行動する力を身につけることができるよう、子ども読書活動を推進します。
--------	---

現状・課題・方策

☐ 第4次名古屋市子ども読書活動推進計画

名古屋市では、令和5年3月に「第4次名古屋市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

図書館は、生涯にわたる読書習慣と、自ら考え行動する力を身につけることを目的とする計画の中で、本との出会いや読書の楽しみを知る機会を広く提供する役割を担っています。

豊富な蔵書の中から子どもが自由に本を選び、おはなし会などの行事を通じて読書の楽しさを体験し、貸出などのサービスを受けることができる読書活動の拠点として、学校などの他機関との連携を積極的に推進し、地域の子どもの読書活動を支えます。

また、狭義の読書にとどまらず、子どもが本を活用して主体的に課題を見つけ、学んでいくことができるよう支援していきます。

☐ 中学生・高校生向けの取り組み

令和6年度に名古屋市立小・中・高校生を対象に実施した読書実態調査では、1か月間に一冊も本を読まない不読者の割合は、小学生 13.0%に対して、中学生 27.6%、高校生 39.8%と、年齢が上がるにつれ読書離れが進行しています。

ティーンズ向けに特化した SNS での情報発信や、中学生・高校生と協働して、中学生・高校生が読書・図書館に親しめるような事業の実施、中高生に人気がある小説紹介クリエイターを「名古屋市子ども読書アンバサダー」として任命し、本の紹介動画の配信に加え中高生と交流できるイベントの実施など、中学生・高校生の読書習慣の創出につながるよう積極的に取り組みます。

また、市立中学校及び特別支援学校の生徒を対象に電子書籍専用IDを発行し、自分のタブレットから電子書籍を利用できる環境を整えることにより、読書への興味関心を喚起します。

□ 第4次名古屋市子ども読書活動推進計画

- 保健センターとの連携による「はじめての本との出会い事業」
- ◆ 「ブックスタート事業」（赤ちゃんと保護者に絵本を手渡す）
- 赤ちゃんへの絵本プレゼント事業の推進
- ◇ 学校図書館連携窓口
 - ・ 学校図書館の課題解決支援（図書室整備・図書購入などへの助言や支援）
 - ・ 学習支援図書セット貸出（学校専用のテーマ別図書セットを発送）
 - ・ 特別支援教育資料貸出（視聴覚資料セットを発送）
- 医療機関、保育園及び幼稚園への団体貸出
- 学校・幼稚園・保育所・認定こども園への司書の派遣（読み聞かせ・ブックトークなど）
- 学校向けの団体貸出による読書活動・調べ学習支援の充実
- ブックホスピタル（修理・装備、修理方法の伝授）
- 子どもと本の講座の開催
- 乳幼児向け絵本や子ども向けの図書などリストなどの作成・配布
- 子どもの主体的な学習の支援
 - ・ 「図書館で宿題おうえん」等の講座の開催
 - ・ 「調べ方案内」等のツールの作成

□ 中学生・高校生向けの取り組み

- 学校連携によるティーンズ向け行事や展示の実施
 - ・ ビブリオバトル（知的書評合戦）の開催
 - ・ 学校で開催されたビブリオバトルのチャンプ本紹介
- 名古屋市図書館ティーンズXの運用
- ティーンズ（中高生向け）ホームページでの情報発信
- ◆ 中学生・高校生と協働した事業の実施
- ◇ 電子書籍サービスの拡充(拡)
- ◇ 読書アンバサダーによる本の紹介動画の配信、交流イベントの実施(拡)

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和7年度以降の新規事業、(拡)令和7～10年度の期間に拡充するもの

行動目標 7	多様な学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を発信・活用できる仕組みづくりを進め、大人の読書活動を推進します。
--------	--

現状・課題・方策

☐ 大人の読書活動推進

「市民の学習情報と学習志向に関する調査報告書 令和3年9月実施」（名古屋市生涯学習部生涯学習課 2022）によると、生涯学習への意欲はあっても実際には取り組むことができていない人が多いという状況です。

このような現状を踏まえ、誰もが生涯にわたって自由に学ぶことができるよう、子ども読書活動推進に加えて、大人の読書活動推進に取り組みます。

☐ 学びあう機会と学んだ成果を発信・活用できる仕組みづくり

従来の大人向けの事業は、講座などの受動的な学びが中心のものとなっていました。しかし、地域が直面する課題の解決や地域活性化のため、学んだことをまちづくりなどでいかす機会が求められています。そのためには、受動的な学びのみならず、その成果を発表し、地域社会に還元することで他者と学びあう機会をつくる必要があります。

地域団体や区役所・関係機関などとの連携により、地域の課題を捉えた多様な学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を発信・活用できる仕組みづくりを進めます。

☐ 学びあう空間の創出

図書館の利用について、これまでは個人単位での利用を想定していました。そのため、グループでの利用や利用者同士の交流については考慮されておらず、図書館の設備もそのような複数での利用に対応してはいませんでした。

各図書館及び合築・周辺施設の状況に応じて、本のある空間を活用し、互いに学びあうことのできる空間の創出をめざします。

主な取り組み

📖 大人の読書活動推進

- 各図書館の特色をいかした大人向けの企画の実施
- 地域団体と連携した大人向け企画の実施
- ◇ あいちサイエンスフェスティバルへの参加（図書館サイエンス夜話など）
- ◇ 名古屋市新事業支援センターとの連携によるビジネス・創業夜間相談会
- 図書館見学ツアー（団体向けの図書館施設見学）
- としょかん出前教室（団体の求めに応じて職員が出向いて図書館の利用方法や活用方法を案内）
- 社会福祉協議会との連携による「音読教室事業」

📖 学びあう機会と学んだ成果を発信・活用できる仕組みづくり

- 地域団体や関係機関などとの連携によるワークショップの開催
- ◆ ワークショップの成果物の展示
- ◆ ワークショップの成果物を図書館資料や図書館ホームページのコンテンツとして活用

📖 学びあう空間の創出

- ◆ 展示スペースの提供
- ◆ 集会室の提供

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和7年度以降の新規事業、(拡)令和7～10年度の期間に拡充するもの

新

行動目標 8

「名古屋市読書バリアフリー推進計画」に基づき、視覚障害者等の読書環境の整備に取り組みます。

現状・課題・方策

☐ 名古屋市読書バリアフリー推進計画(第1次)

名古屋市では、令和6年3月に「名古屋市読書バリアフリー推進計画(第1次)」を策定しました。

この計画は令和6年度から令和11年度までの6年間を計画期間としていますが、障害者等の実態やニーズについて調査を実施し、3年を経過した時点（令和8年度）で中間見直しを行うことにしています。

☐ 視覚障害者などが利用しやすい書籍等の充実

図書館では、視覚障害、発達障害、肢体不自由その他の障害により読書が困難な方の障害の種別や程度に応じたアクセシブルな書籍などの充実や、製作した点訳・音訳・テキストデータをインターネット上の図書館であるサピエ図書館や国立国会図書館に継続的に提供します。

☐ 円滑な利用のための支援の充実、情報入手の支援

アクセシブルな書籍や読書支援機器、サピエ図書館の利用方法等を紹介するコーナーを設置するなど、円滑な利用のための支援を充実させます。

また、関係機関との連携を図り、名古屋市のICTサポート推進事業を紹介するなど、読書支援機器に関する情報の入手を支援します。

☐ インターネットを利用したサービスの提供体制の強化

視覚障害者などがアクセシブルな書籍を利用し読書を身近なものにするため、サピエ図書館及び国立国会図書館の障害者用資料検索「みなサーチ」を周知するなど、インターネットを活用した利用促進に努めます。

☐ 人材の育成等

図書館の司書をはじめ職員に対して読書バリアフリーに係る研修会を通じて職員の資質向上を図るとともに、点訳・音訳・テキストデータ化の製作に携わるボランティアの養成や研修を行います。

主な取り組み

📖 名古屋市読書バリアフリー推進計画(第1次)

- 中間見直し（令和8年度）に基づく行動目標の見直し

📖 視覚障害者などが利用しやすい書籍等の充実

- アクセシブルな資料の充実（拡）
- ◆ 図書等の部分録音の製作・貸出（拡）
- ◇ 点字図書・デージー図書・テキストデータ化の製作・貸出（拡）
- ◇ サピエ図書館へのデータの提供
- ◇ 電子書籍サービスの拡充（拡）

📖 円滑な利用のための支援の充実、情報入手の支援

- 読書バリアフリーについて紹介するコーナーの設置(拡)
- 身体に重度の障害がある方、知的障害の重い方への郵送貸出
- 対面読書サービスの実施
- 拡大鏡や拡大読書器などの資料の利用に必要な機器の整備
- ☆ 図書館に来館しなくても利用登録ができるシステムの導入の検討（新）
- ☆ 視覚や精神など、その他の障害のある方への郵送貸出の検討（新）

📖 インターネットを利用したサービスの提供体制の強化

- 図書館ホームページでの情報提供

📖 人材の育成等

- 読書バリアフリーに係る研修会を通じた職員の資質向上
- ◆ 読書バリアフリーに関わるボランティアの養成及び研修
- ◇ 当事者団体、情報文化センターなどとの協議の場「読書環境整備連絡会」への参加

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和7年度以降の新規事業、(拡)令和7～10年度の期間に拡充するもの

行動目標 9	他機関や団体と連携し、資料・情報の利用及び活用のためのインフラ・情報拠点となります。
--------	--

現状・課題・方策

☐ 名古屋市内の公共図書館・専門図書館・大学図書館との連携

厳しい財政状況の中、市民が多様な資料・情報にアクセスできるようにするためには、名古屋市内の公共図書館・専門図書館・大学図書館との連携が必要です。平成 29 年 6 月に本格実施した「まるはち横断検索」により、名古屋市内の公共図書館・専門図書館・大学図書館（23 団体 49 図書館）の資料や「なごやコレクション」をひとまとめに横断検索できるようになりました。また、一般の方も利用できる名古屋市内にある大学図書館の情報について、図書館ホームページでご紹介しています。

☐ 行政機関・各種団体等との連携

保健センターとの連携による「はじめての本との出会い事業」など、行政機関や大学・学校、その他の団体との連携により図書館を利用することのなかった市民にも読書に関心を持ってもらうための事業や企画を実施しています。また、近年、書店が減少している現状を鑑み、市民が本とふれあう機会を充実させるため、地域の書店との連携を積極的に進めます。そのほか、名古屋市の施策や制度を紹介するリーフレットなどの暮らし・生活に役立つ情報を関連する本の近くで提供していきます。

行政機関や各種団体と多面的に連携を進め、図書館が資料・情報の利用及び活用のためのインフラ・情報拠点となるよう努めます。

主な取り組み

☐ 名古屋市内の公共図書館・専門図書館・大学図書館との連携

- 名古屋市内の公共図書館・専門図書館・大学図書館の蔵書情報の提供（まるはち横断検索）
- 一般の方も利用できる大学図書館の情報の提供
- 名古屋市内の大学・学校・幼稚園・保育所・認定こども園と連携した企画・展示

☐ 行政機関・各種団体との連携

- 保健センターとの連携による「はじめての本との出会い事業」
- 社会福祉協議会との連携による「音読教室事業」
- ◇ 名古屋市新事業支援センターとの連携によるビジネス・創業夜間相談会
- ◇ ステーション Ai との連携などによるビジネス支援事業(新)
- SDGs 未来都市など、名古屋市の施策に関する企画・展示
- ◆ 名古屋市博物館・美術館・科学館の企画展の関連企画・展示
- その他の行政機関・団体と連携した企画・展示
- 名古屋市の施策や制度を紹介するリーフレットなどの暮らし・生活に役立つ情報の提供
- 名古屋市内にある各種資料を所蔵している機関・施設（類縁機関）の名簿の作成
- 地域の書店との連携による市民の読書活動の推進(拡)
- ◆ 教科書展示会の実施

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和7年度以降の新規事業、(拡)令和7～10年度の期間に拡充するもの

行動目標 10	市民・地域社会が活動するための環境づくりを進め、協働して事業を実施します。
---------	---------------------------------------

現状・課題・方策

☐ 市民・地域社会との協働

子ども読書活動推進や障害者サービスの提供など、多くのボランティアとの協働により事業を実施しています。多様化する地域の課題に応え、図書館事業を充実させていくためには、さまざまな経験・知識を持つ市民の方が、図書館に関わりを持ち、活動できる環境の整備が必要です。

地域社会で活動している市民に呼びかけ、協働して事業に取り組むとともに、関係機関・団体との連携を図り、図書館サービスの充実に努めます。

☐ ボランティアの養成と活動の支援

読み聞かせや録音図書の製作などのボランティアをはじめするには、その活動に必要な知識や技能の習得が必要です。養成講座やスキルアップ講座を開催し、交流会を実施するなど、ボランティアの養成と活動環境の整備を促進し、市民・地域社会とのパートナーシップによる図書館運営を行います。

主な取り組み

☐ 市民・地域社会との協働

- 市民の経験値を活かした講座などの実施
- 各種団体への団体貸出
- 教育基金、なごやほんでキフ倶楽部による寄附制度
- ◆ としょかんまつりの実施
- 図書館近隣の多様な主体と連携・協働した事業の実施(新)
- 地域の書店との連携による市民の読書活動の推進(拡)
- ここにもライブラリーの拡充(地域と図書館が協力し合い、人と本とが出会う場所をつくる取り組み)(拡)

☐ ボランティアの養成と活動の支援

- ◆ ボランティアの養成講座の開催
- ボランティアの活動環境の整備
 - ・ 図書館の運営をサポートするボランティア
返本 装備・修理
 - ・ 児童サービスボランティア
おはなし会・行事 保健センター読み聞かせ
ブックホスピタル ブックスタート
 - ・ 障害者サービスボランティア
対面読書 点訳 音声訳 テキストデータ化
- ◆ 交流会の開催

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和7年度以降の新規事業、(拡)令和7～10年度の期間に拡充するもの

行動目標 11 職員の資質向上に取り組めます。

現状・課題・方策

「市民の生活に役立つ図書館をめざして」の基本理念・基本方針を実現するためには、①資料・情報の生産・流通に関する知識、②資料・情報と市民を結びつけ、課題解決に向けた活動を支援するために必要な知識と技能、③市民・地域社会と協働して読書活動の推進のための施策を実行する能力を高めることが必要です。

行動目標 1～10 の達成のため、市民ニーズの変化などに留意しながら司書の研修を強化し、司書の資質向上に努めます。

主な取り組み

- 「市民の生活に役立つ」図書館に必要な知識・技能の習得のため継続的・計画的な研修の実施
- 外部の関係機関などの実施する研修などへの参加及び講師派遣
- 接遇研修などを通じた応接サービスの質的向上
- 他機関との連携や市民・地域社会との協働に必要な経験の蓄積と、幅広い人脈の形成

凡例 ■全館又は全体で実施、◆一部の館で実施、◇中央館で実施、☆めざす事項
(新)令和 7 年度以降の新規事業、(拡)令和 7～10 年度の期間に拡充するもの

参考となる実績

行動目標ごとに設定した指標

行動 目標	指標	令和 6 年度 実績	令和 10 年度 目標
1	電子書籍のコンテンツ数	18,190 点	20,000 点
2	名古屋なんでも調査団報告書のコンテンツ数	148 点	190 点
3	貸出点数（電子書籍を含む）	10,237,605 点	10,700,000 点
4	図書館の資料等を使って、司書が利用者の調べものや資料・情報探しの支援・資料紹介件数	80,465 件	80,000 件
5	ホームページアクセス件数	8,568,127 件	9,000,000 件
6	図書館司書による学校等でのブックトークや読み聞かせの実施回数	224 件	500 件
7	大人向け行事の開催回数	1,015 回	1,100 回
8	アクセシブルな資料数（DAISY、LL ブック、さわる絵本、布の絵本、大活字）	23,986 点	24,000 点
9	連携による企画・展示件数	1,253 件	1,436 件
10	館内ボランティア団体の交流会の実施館数	16 館	21 館
11	利用者満足度	98.0%	98.6%